

民間ネット調査「水環境に関するアンケート」（令和５年９月実施）の結果

○調査目的

大阪市では、2021 年３月に大阪府と共同で策定した「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画に基づき、あらゆるステークホルダーとの連携のもと、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」が掲げる「2050 年までに海洋プラスチックごみによる新たな汚染ゼロ」の実現に寄与するとともに、2019 年 12 月に新たに策定した「大阪市環境基本計画」の、水分野の個別計画としてSDGsの達成への貢献をめざしております。

そこで、市民のみなさまが大阪市の水環境に関して、どのような意識や考えをお持ちになっているのかをお聞きし、2025 年度を目途に予定している本実行計画の中間見直しの参考とするため、今回の調査を実施しました。

○調査期間

令和５年９月８日から９月１１日

○調査内容

- (１) 大阪市の水環境について
- (２) 水辺の施設・空間について
- (３) 海洋プラスチックごみ問題について
- (４) まちなかや川や大阪湾でのプラスチックごみの状況について

○回答構成

- (１) 有効回答数 500 回答（100％）（調査対象 500 人）
- (２) 回答者属性

年代別	29 歳以下	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上	合計
調査対象数（人）	85	75	85	80	175	500
割合（％）	17.0	15.0	17.0	16.0	35.0	100.0

地域別	中心	西部	北部	東部	南部	合計
調査対象数（人）	130	58	90	109	113	500
割合（％）	26.0	11.6	18.0	21.8	22.6	100.0

調査対象：大阪市に居住している外国人登録者を含めた 18 歳以上の大阪市民 500 人

（令和４年度調査と同じ）

【地域別】

中心ブロック：北区・福島区・中央区・西区・天王寺区・浪速区

西部ブロック：此花区・港区・大正区・住之江区

北部ブロック：西淀川区・淀川区・東淀川区

東部ブロック：都島区・東成区・生野区・旭区・城東区・鶴見区

南部ブロック：阿倍野区・住吉区・東住吉区・平野区・西成区

※本調査結果についての留意事項

- ・質問文及び選択肢などの長い文章については、簡略化して表示している場合があります。
- ・数値(%)は、各実数を元に比率表示し、小数第2位を四捨五入で算出しています。
したがって、内訳の合計が全体の合計に一致しないことがあります。
また、複数回答の質問については、該当者数を母数に比率表示しています。
- ・自由記入設問の件数については母数を超える場合があります。

〔参考〕

(1) 令和4年度に実施した民間ネット調査

調査対象：大阪市に居住している外国人登録者を含めた18歳以上の大阪市民
500人

調査期間：令和4年9月8日から9月12日

調査内容：(1) 大阪市の水環境について

(2) 水辺の施設・空間について

(3) 海洋プラスチックごみ問題について

(4) まちなかや川や大阪湾でのプラスチックごみの状況について

有効回答数：500回答(100%)

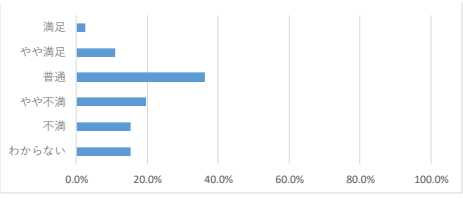
○結果概要

Q 1. <水環境への満足度>

大阪市の水環境の状況に関する次の項目について、あなたはどの程度満足していますか。あてはまるものを1つお選びください。

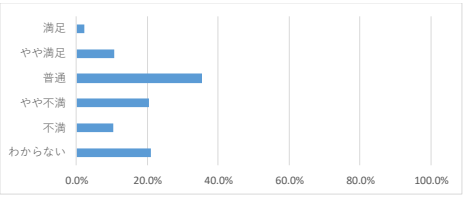
①川や海の「水のきれいさ（見た目やにおいなど）」（水質）

	回答数	比率
1 満足	13	2.6%
2 やや満足	55	11.0%
3 普通	181	36.2%
4 やや不満	98	19.6%
5 不満	76	15.2%
6 わからない	77	15.4%
回答総数	500	100.0%



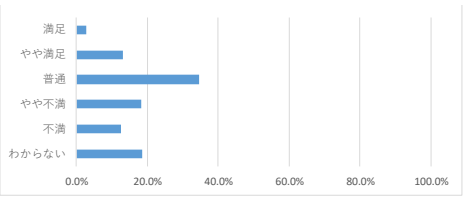
②川や海などの水辺に生息する「鳥や魚、虫、草木などの生き物の豊かさ」（生物多様性）

	回答数	比率
1 満足	11	2.2%
2 やや満足	53	10.6%
3 普通	177	35.4%
4 やや不満	102	20.4%
5 不満	52	10.4%
6 わからない	105	21.0%
回答総数	500	100.0%



③水辺空間（＊１）に対する「親しみやすさ」（ハード面での快適性）

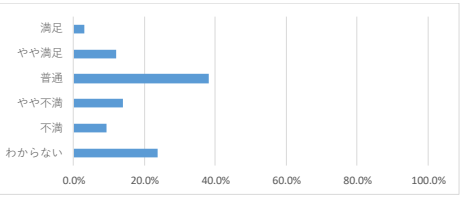
	回答数	比率
1 満足	14	2.8%
2 やや満足	66	13.2%
3 普通	173	34.6%
4 やや不満	91	18.2%
5 不満	63	12.6%
6 わからない	93	18.6%
回答総数	500	100.0%



（＊１）「水辺空間」とは川や海、干潟やワンド、野鳥園臨港緑地やシーサイドコスモなどの海辺の緑地、とんぼりリバーウォークなどの遊歩道、川の駅（船着き場）など

④水辺空間で開催されるイベント等での「にぎわいの楽しさ」（にぎわい）

	回答数	比率
1 満足	15	3.0%
2 やや満足	60	12.0%
3 普通	191	38.2%
4 やや不満	70	14.0%
5 不満	46	9.2%
6 わからない	118	23.6%
回答総数	500	100.0%



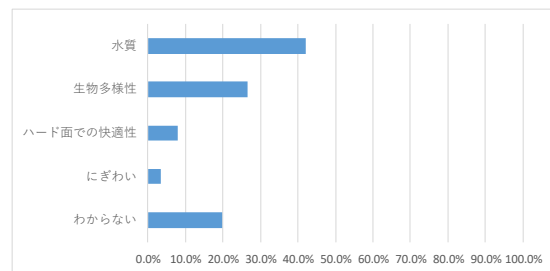
「満足」、「やや満足」と回答した方は全項目で 10%台であるが「普通」と回答した方を加えると全項目で約 50%の結果となっている。しかし「やや不満」、「不満」と回答している方は全項目で 20%を超えている結果となった。昨年度結果と比較すると「満足」、「やや満足」と回答した割合は水質、生物多様性、にぎわいの楽しさについては上昇、ハード面での快適性については減少であった。なおにぎわいの楽しさについては調

査を開始した令和2年度以降、最も高い割合であった。一方でわからないと回答した方の数が生物多様性を除いて調査開始以降最も数が多かったことから水環境を知ってもらう機会や水環境に触れる機会を増やす取り組みを進める必要がある。

Q2. <水環境改善に向けた必要事項>

大阪の水環境をさらに改善していくために、あなたはどの項目が一番必要だと思いますか？あてはまるものを1つお選びください。

			回答数	比率
1	川や海の「水のきれいさ（見た目やにおいなど）」	水質	211	42.2%
2	川や海などの水辺に生息する「鳥や魚、虫、草木などの生き物の豊かさ」	生物多様性	133	26.6%
3	水辺空間に対する「親しみやすさ」	ハード面での快適性	40	8.0%
4	水辺空間で開催されるイベント等での「にぎわいの楽しさ」	にぎわい	17	3.4%
5	わからない	わからない	99	19.8%
回答総数			500	100.0%



40%以上の方が水質、20%以上の方が生物多様性との結果で昨年度結果から大きな変動はなかった。

Q3. <水質改善に必要な事項>

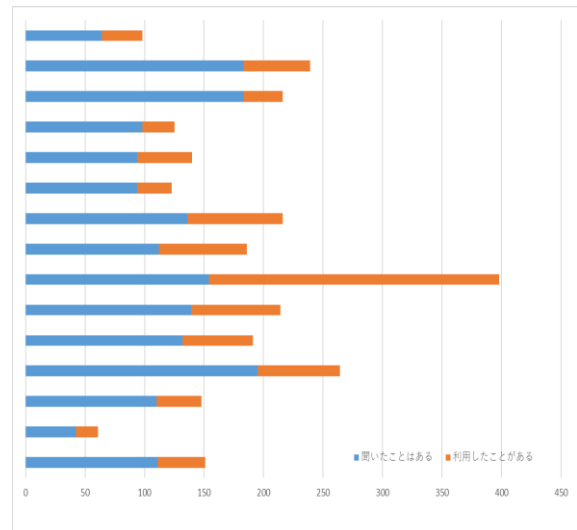
大阪の水環境の改善のためには、どのようなことが必要と考えていますか。ご自由にご記入ください。

主な意見として、「一人一人の意識・個人の自覚・マナー向上等」が14件、「ごみを出さない・捨てない・不法投棄の罰則化」といったごみに関することについては67件、「生活排水・工場排水の規制強化、管理、削減、排水処理施設の整備」といった排水に関することについては28件、「水質の改善」といった水質に関することについては27件、「意識改革・意識づけ」といった意識に関することについては16件、「外来種の駆除」といった外来種に関することは5件であった。一方で「なし・わからない・思いつかない」等は94件、無回答は147件であった。

Q4. <水辺施設を利用した市民の割合>

あなたは（最近5年間に）次の水辺の施設・空間を利用したことがありますか？また、ご存じですか？あてはまるものをすべてお選びください。

		聞いたことはある	利用したことがある
1	大川ふれあいの水辺	64	34
2	大阪南港釣り公園	183	56
3	大阪北港マリーナ	183	33
4	下水処理場のせせらぎ（大野、放出、平野の各下水処理場に設置）	98	27
5	城北川遊歩道	94	46
6	タグポート大正	94	29
7	築港と天保山（中央突堤やサンセット広場（マーメイド像））	136	80
8	とんぼりリバーウォークと湊町リバープレイス	112	74
9	中之島公園	154	244
10	南港の海浜緑地（野島園臨港緑地、シーサイドコスモ）	139	75
11	船着き場（川の駅など）	132	59
12	大阪港や市内河川のクルーズ船	195	69
13	舞洲の磯・緑道と大阪まいしまシーサイドパーク	110	38
14	矢倉緑地公園	42	19
15	淀川の干潟（柴島干潟、十三干潟、城北ワンド）	111	40



「中之島公園」については約 80%の方が聞いたことはある若しくは利用したことがあると回答している。次いで「大阪港や市内河川のクルーズ船」が約5割であったが、それ以外の施設・空間については5割に満たない結果となっている。

Q 5. ＜水辺施設を利用した市民の割合＞

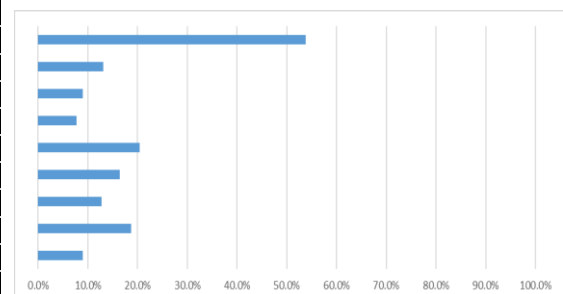
Q 4 で記載のない大阪市内の水辺の施設・空間を、最近5年間に利用したことがある場合は、その名称をご記入ください。

大阪城公園や長居自然博物館、長居植物園、鶴見緑地公園といった回答があった。一方で「なし・わからない・思いつかない」等は228件、無回答は210件であった。

Q 6. ＜水辺の施設・空間の利用目的＞

Q 4 もしくは Q 5 で回答いただいた、あなたが利用した水辺の施設・空間について、どのような目的で利用しましたか。以下の選択肢よりあてはまるものをすべてお選びください。なお、ここに記載のない理由により水辺の施設・空間を利用した場合は、「その他」に利用した理由をご記入ください。

	回答数	比率
1 水辺の景色や雰囲気を楽しむため	161	53.8%
2 魚釣りをを行うため	39	13.0%
3 水辺の生き物を観察するため	27	9.0%
4 水に触れるため	23	7.7%
5 水辺の近くにある店などを利用するため	61	20.4%
6 船に乗るため	49	16.4%
7 水辺で開催されるイベントに参加するため	38	12.7%
8 通勤や通学、散歩の通り道であるため	56	18.7%
9 その他	27	9.0%
全体	299	100.0%

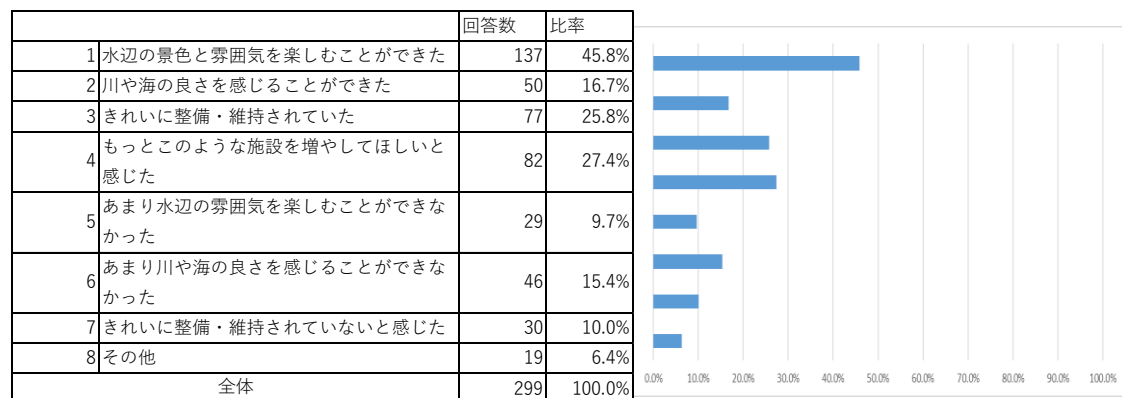


50%以上の方が「水辺の景色や雰囲気を楽しむため」と回答しており、次に多かったのは「水辺の近くにある店などを利用するため」で約20%、次いで「通勤や通学、散歩の通り道であるため」であった。昨年度結果と比較すると「水辺の景色や雰囲気を楽しむため」が約10%増、「魚釣りをを行うため」「船に乗るため」が約7%増、一方

で「水に触れるため」「通勤や通学、散歩の通り道であるため」は減の結果であった。

Q 7. <水辺の施設・空間を利用した感想>

Q 4 もしくは Q 5 で回答いただいた、あなたが利用した水辺の施設・空間について、利用した感想はどうでしたか。以下の選択肢よりあてはまるものをすべてお選びください。なお、ここに記載のない感想がある場合は、「その他」に感想をご記入ください。



昨年度結果と同様「水辺の景色と雰囲気を楽しむことができた」や「きれいに整備・維持されていた」など肯定的な回答が「楽しむことができなかった」や「良さを感じることができなかった」といった否定的な回答を上回る結果であった。特に「もっとこのような施設を増やしてほしいと感じた」については10%以上の増であった。

Q 8. <希望の水辺の施設・空間>

大阪市には今後どのような水辺の施設・空間があればいいと考えていますか。ご自由にご記入ください。

「広場・公園等」が14件、「子どもが水に触れて遊べる場所」等が7件、「レストラン・カフェ」等が3件、「クルーズ船・観覧船」が4件であった。一方で「何も必要ない・今のままで十分」といった回答は7件で、「なし・わからない・思いつかない」といった回答は124件、無回答が202件であった。昨年度結果と比べると「なし・わからない・思いつかない」と「無回答」の件数が40件以上増えており現状の施設で満足している市民が増えていると推察される。

Q 9. <参加を希望する水辺空間を利用したイベント>

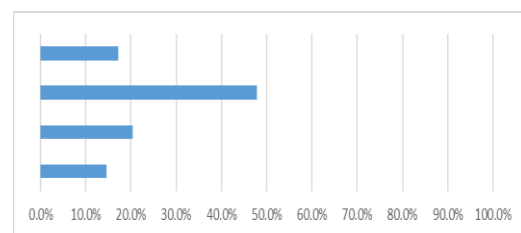
大阪市において、今後どのような「水辺空間を利用したイベント」を開催すれば、参加したいと思われますか。ご自由にご記入ください。

「釣り大会」等が10件、「花火大会」等が6件、「子どもが楽しめるイベント」等が9件、「水泳大会」等が3件、「お祭り」等が2件、「音楽イベント」等が2件であった。一方で「イベント不要・参加したくない・わからない・思いつかない」といった回答が165件、無回答が204件であった。昨年度結果と比べると「イベント不要・参加したくない・わからない・思いつかない」と「無回答」の件数が40件以上増えておりイベント自体を望まない市民が増えていると推察される。

Q10. <海洋プラスチックごみ問題について関心度>

あなたは海洋プラスチックごみ問題について関心がありますか。あてはまるものを1つお選びください。

	回答数	比率
1 とても関心がある	86	17.2%
2 ある程度関心がある	239	47.8%
3 あまり関心がない	102	20.4%
4 全く関心がない	73	14.6%
全体	500	100.0%

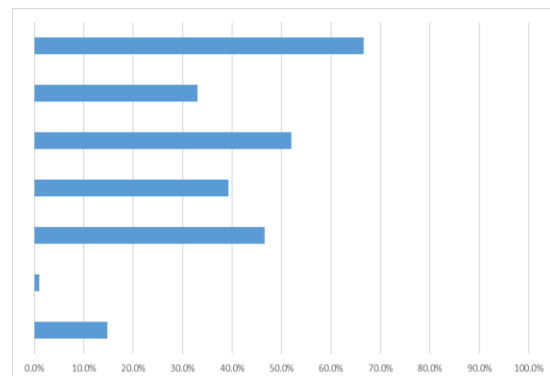


「とても関心がある」、「ある程度関心がある」と回答した方が65%に上り、「あまり関心がない」、「全く関心がない」と回答した方を大きく上回る結果であった。昨年度結果から大きな変動は見られなかった。

Q11. <海洋プラスチックごみ問題について関心度>

海洋プラスチックごみについてどのようなことを知っていますか。あてはまるものをすべてお選びください。なお、ここに記載のない内容がある場合は、「その他」にご記入ください。

	回答数	比率
1 川や街でポイ捨てされたプラスチックごみが海に流出している	333	66.6%
2 海洋プラスチックごみが魚と同じ量にまで増加してしまう可能性がある	165	33.0%
3 海の生き物や鳥がプラスチックごみにより、傷ついたり死んだりしている	260	52.0%
4 一度海に流れ着いたごみの回収や処理は困難である	196	39.2%
5 小さなプラスチック（マイクロプラスチック）が問題となっている	233	46.6%
6 その他	5	1.0%
7 わからない	74	14.8%
全体	500	100.0%

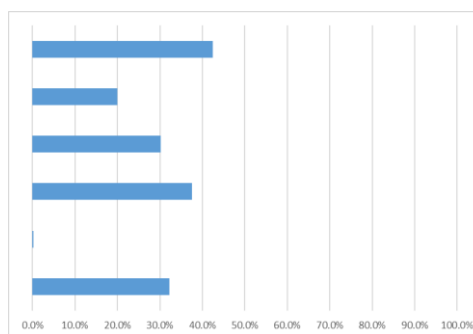


65%以上の方が「ポイ捨てされたごみが海へ流出している」ことを知っており、50%以上の方が「プラスチックごみにより生き物が傷ついている」ことを知っていた。昨年度結果と比較して「わからない」と回答した方の割合が約3%減少しており海洋プラスチックごみ問題の認識が徐々に広まっていることが推察される。

Q12. <マイクロプラスチックが起こす問題の認知度>

「マイクロプラスチック」についてどのようなことを知っていますか。あてはまるものをすべてお選びください。なお、ここに記載のない内容がある場合は、「その他」にご記入ください。

	回答数	比率
1 5ミリメートル以下の小さなプラスチックである	212	42.4%
2 歯磨き粉などに含まれる研磨剤のように、小さい状態で工業生産されるものがある	100	20.0%
3 大きなプラスチックが紫外線や波などにより、細かく砕けて発生するものがある	151	30.2%
4 水環境中に存在する有害物質を吸着することにより、海の生き物や人体に害がおよぶことが懸念されている	188	37.6%
5 その他	1	0.2%
6 わからない	161	32.2%
全体	500	100.0%



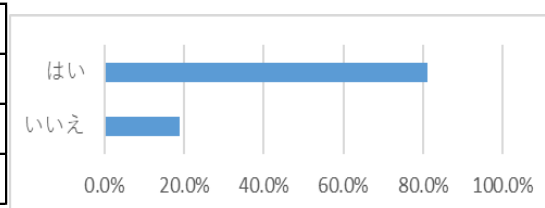
マイクロプラスチックの定義である5ミリメートル以下ということは 40%以上の方が知っており、その発生工程や生態系へ及ぼす影響については 30%以上の方が知っていた。昨年度結果と比較して「わからない」と回答した方の割合が約2%減少しておりマイクロプラスチックへの認識が徐々に広まっていることが推察される。

Q13. <プラスチックごみを削減するための行動>

あなたはプラスチックごみを削減するために次の行動をしていますか？「はい」「いいえ」のうち、よくとっている行動の方であてはまるものを1つお選びください。

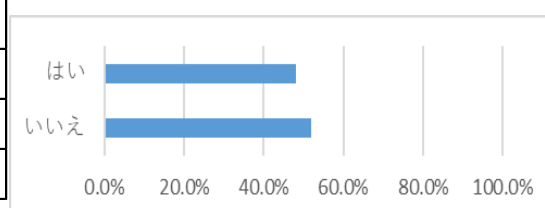
①エコバックを持ち歩いている

	回答数	比率
1 はい	405	81.0%
2 いいえ	95	19.0%
回答総数	500	100.0%



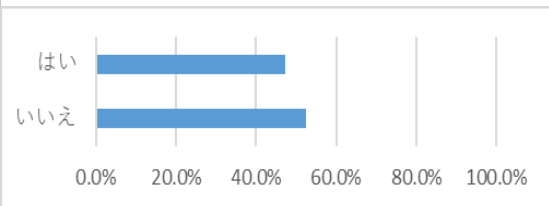
②マイボトルを持ち歩いている

	回答数	比率
1 はい	233	46.6%
2 いいえ	267	53.4%
回答総数	500	100.0%



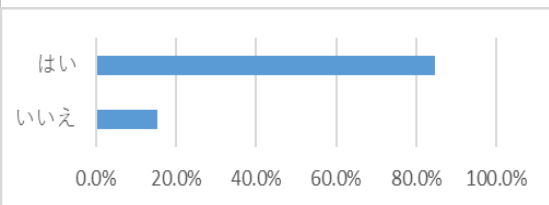
③ワンウェイのプラスチック（ストローやスプーンなど）をできるだけ使用しない

		回答数	比率
1	はい	237	47.4%
2	いいえ	263	52.6%
	回答総数	500	100.0%



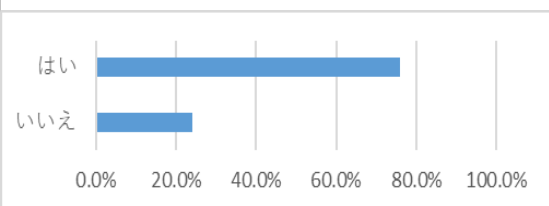
④詰め替え用品を購入している

		回答数	比率
1	はい	423	84.6%
2	いいえ	77	15.4%
	回答総数	500	100.0%



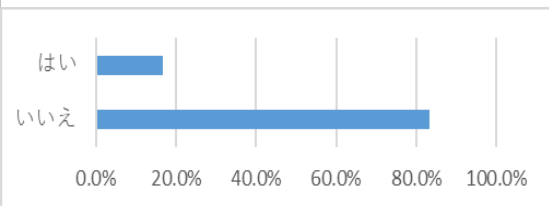
⑤容器包装プラスチックやペットボトルをきちんと分別して廃棄している

		回答数	比率
1	はい	380	76.0%
2	いいえ	120	24.0%
	回答総数	500	100.0%



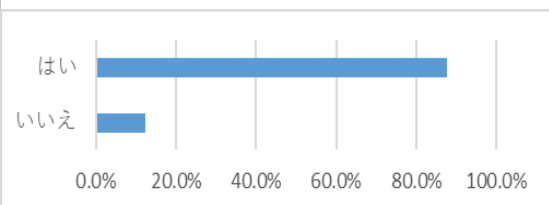
⑥自宅や勤務先周辺などでの地域の清掃活動に参加している

		回答数	比率
1	はい	83	16.6%
2	いいえ	417	83.4%
	回答総数	500	100.0%



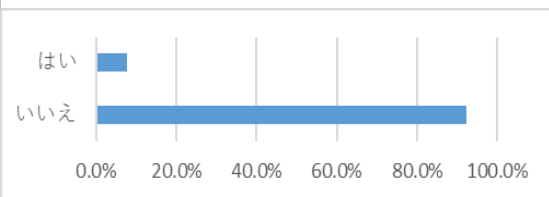
⑦プラスチックなどのごみのポイ捨てをしない

		回答数	比率
1	はい	438	87.6%
2	いいえ	62	12.4%
	回答総数	500	100.0%



⑧プラスチックごみ削減に係るイベント、研修や学習会に参加している

		回答数	比率
1	はい	38	7.6%
2	いいえ	462	92.4%
回答総数		500	100.0%



80%以上の方が「ポイ捨てをしない」、「エコバックを持ち歩いている」、「詰め替え用品を購入している」と回答していた。一方、「マイボトルを持ち歩いている」、「ワンウェイのプラスチック（ストローやスプーンなど）をできるだけ使用しない」と回答した方は約 50%であり「清掃活動に参加している」と回答した方は約 20%、「ごみ削減に係るイベント、研修や学習会に参加している」と回答した方は 10%に満たない結果であった。①～⑧を合計した行動している市民の割合は 57%で昨年度結果と比較して 1.1%の増加であった。

Q14. <プラスチックごみを削減するための行動>

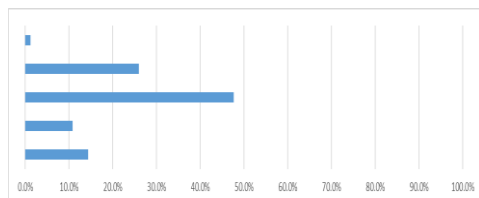
Q13 で記載のないプラスチックごみを削減するための行動をしている場合は、その行動内容をご自由にご記入ください。

「使わない・買わない・購入しない」等が 12 件、「紙製品の利用」等が 4 件、「瓶製品の利用」等が 2 件であった。一方で「なし・わからない・思いつかない」といった回答が 176 件、無回答が 232 件であった。昨年度結果と比較して「なし・わからない・思いつかない」と「無回答」の件数が 25 件増加しているため、Q13 における行動例以外の取組事例について例となるステークホルダーの活動情報等の発信を行うなどの取組を進める必要がある。

Q15. <まちなかでのプラスチックごみの状況>

路上や公園などまちなかでのプラスチックごみの状況について、あてはまるものを 1 つお選びください。

	回答数	比率
1 プラスチックごみは全く見当たらない	6	1.2%
2 プラスチックごみはほとんど見当たらない	130	26.0%
3 プラスチックごみをよく見かける	238	47.6%
4 プラスチックごみをたくさん見かける	54	10.8%
5 わからない	72	14.4%
全体	500	100.0%

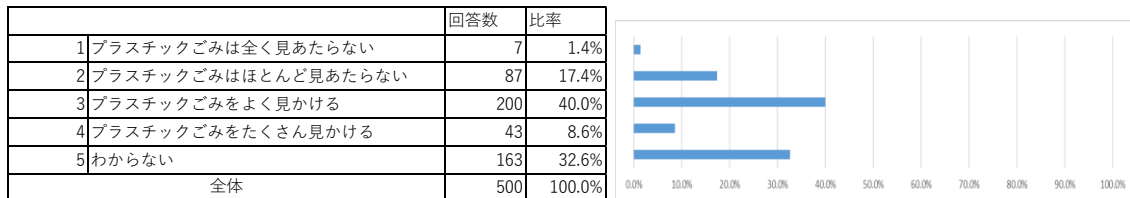


「プラスチックごみをよく見かける」、「プラスチックごみをたくさん見かける」と回答した方が約 60%であり、「プラスチックごみは全く見当たらない」、「プラスチックごみはほとんど見当たらない」と回答した方を大きく上回る結果であった。昨年度結果と比較すると「プラスチックごみは全く見当たらない」、「プラスチックごみはほ

とんど見当たらない」と回答した方は約3%増、「プラスチックごみをよく見かける」、「プラスチックごみをたくさん見かける」と回答した方は約1%減であるため一層のまちの美化に向けて着実に前進していると推察される。

Q16. <川や大阪湾でのプラスチックごみの状況>

大阪市内の川や大阪湾でのプラスチックごみの状況について、あてはまるものを1つお選びください。



「プラスチックごみをよく見かける」、「プラスチックごみをたくさん見かける」と回答した方が約50%であり、「プラスチックごみは全く見当たらない」、「プラスチックごみはほとんど見当たらない」と回答した方を大きく上回る結果であった。昨年度結果と比較すると「プラスチックごみは全く見当たらない」、「プラスチックごみはほとんど見当たらない」と回答した方は約5%増、「プラスチックごみをよく見かける」、「プラスチックごみをたくさん見かける」と回答した方は約2%減でありQ15のまちなかでのプラスチックごみの状況が改善されたことを受けて川や海における状況も徐々に改善されていっていると推察される。

Q17. <プラスチックごみを減らすためにすべきこと>

プラスチックごみを減らすため、どうしたらよいと思いますか。ご自由にご記入ください。

「個人意識の向上・個人の自覚・モラルの向上・マナーの向上」といった意見が39件、「ゴミ箱の設置」等が23件、「分別の徹底」等が10件、「罰則の強化・罰金」等が19件、「監視カメラの設置」等が3件、「啓発活動・学校教育」等が11件、「使用しない・使用を減らす・使用の制限」等が15件であった。一方で「なし・わからない」といった回答が79件、無回答が200件であった。昨年度結果から同じ意見が多く見られた。